

高津クラブの近況

H氏

生れて以来十余年、部誌発行を企画する
 など近年とみに充実の度を増している我高
 津ハンドボールクラブも、先輩諸氏の長年
 の苦勞のかいあって、徐々ではあるが、日
 本ハンドボール球界の、高津クラブを
 目指し前進しつつある。そこで、最近
 一年を中心とした、我クラブの戦績を
 ふりがえ、てみると、25年9月、
 団体大阪予選（於豊中）

準決勝 対雪陵ク、8対7
 決勝 対大阪ク、7対2
 攻守共に善戦むなく完敗
 し、二位に止まる。25年12月

大阪総合選手権
 二回戦 対三国ヶ丘クラブ、
 10対10で勝つ。これは優勝候補と
 の対戦となり、白熱したシーソーゲー
 ムを展開したが、堂々ニ水を押し切る。

準決勝 対大阪府立大学、11対8
 府大にはゴールキーパーに辻本（九期）、
 高田（十期）のバツクと両氏が出場してお
 られ、我クラブ攻撃陣は非常にやりにくか
 ったが着実に得点してゆき、危なげなく勝



利を納める。
 優勝 対松ヶ枝クラブ、10対10
 優勝を目前にしたから、ダークホースとし
 て前評判がよく、その上、学生陣で固め練
 習量の豊富さを誇る松ヶ枝クラブに勝ちを
 さらわれる。残念無念!!
 26年1月、大阪室内総合選手権

一回戦 不戦勝
 二回戦 対寝屋川クラブ、12対4
 高校主体であった寝屋川クラブを試合
 巧者ぶりを発揮し問題なく軽く一蹴
 してしまふ。

準決勝 対松ヶ枝クラブ

8対13で負けろ。負傷者が
 続出するなど悪条件も重な
 り、又しても松ヶ枝クラブ
 の若さとチームワークの良さ

に苦湯を飲まされ無念の涙。
 決勝では我クラブの宿敵、大阪ク
 ラブが優勝した。この大会に我クラ
 ブは、以前は黄色のユニホーム及び白
 地に袖と襟が黒のユニホームを併用使用
 していたので、額田先輩（五期）のデザイ
 ン考案による、肩から腕にかけてライトブ
 ルーの線の入った白いモダンな新ユニ
 ホーム、新しい白い半パンツ、白のスト
 キングとそろえて、登場したが、結局、

三位に止った。36年8月、練習試合

対丸紅飯田(16/11/01)ノ

で快勝。夏休みでもあり、我々クラブとして
は、ほとんど最強に近いノンバーで対抗。
この大阪実業団の雄丸紅飯田に圧倒的勝利
を納む。

36年11月 大阪総合選手権

二回戦 対三國ヶ丘クラブ

(2へ39/11/56)ノ 服部・石嶋

浅野の三氏が用事で抜けていて
現役(高校生)を使つて人教
をそろえろという苦しさだ
ったが、中江氏の好リード

辻本・高田氏の好プレーで辛

勝。特に本来ゴールキーパーの
辻本氏の名(迷)バツクが光つ
ていた。準決勝、対寝屋川クラブ

(13へ25/11/75)ノ 大学選手を中心に

して固めた寝屋川クラブのチームワーク
の良さに最後まで悩まされ、タイムアップ
一分前、浅野氏の豪快なシュートがゴール
右すみに鮮やかに決まり、これもまた辛勝。

決勝 対大阪クラブ 19(9/11/87)ノ

全日本級のせうくしたるメンバーを擁して
いる大阪クラブに対し、我々クラブは、若さ
とスピードで対抗。前半、開始よりリード
し前半終了前と後半開始直後の速攻がさま

勝

リ、後半には、一時七点差までに離れた。
その後、二点差までにつめよられたが、又
入れ返して、結局、一度も大阪クラブに
リードされることなく、四点差をもって初優
勝となった。攻守両面に活躍の中江氏、強
シユタの浅野氏を中心とするフオワー
ド、巧守備のバツク、ゴールキーパー
と、若さで固つたチームワークの良
さが遂に宿敵を倒し、多年の宿願
が叶えられた。今年の団体でベ
ストエイトに進むなど全国で
も常に上位にランクされる
大阪クラブを破つたことは
我々クラブのチーム力の向上を
如実に示すものである。チーム
結成以来、何度となく苦しさを、
くやしさを、胸の中にしまひ込んで
歩んで来られた先輩諸氏の御努力、
やそれだけでなく、それらに基礎づけ
られた若さ力に對してもこの初優勝は、全
く喜ばしいことである。苦は楽の種と
はよくいったものだ、その通りである。

我々クラブの前途には幸々としたものがある。全国制覇も、まさに、そう遠い夢では
なくなつた。その実力も着々と身につけら
れつつある。御期待あれ!! (H.T.H記)
昭和三十六年十二月二十二日